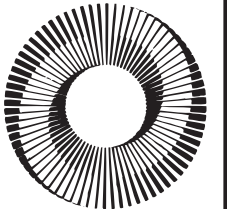




サルスベリと建礼門

夏

御苑の杜 加藤 博之



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 加藤博之
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。

六月、御苑も梅雨期を迎え紫陽花（アジサイ）の鮮やかな花色が雨に濡れた木々の緑によく似合う季節となります。そしてこの時期が過ぎると、気温の上昇とともに京都の街中に祇園囃子の音が聞こえてくる流れ、流れる汗と蝉の大合唱の中に御苑の杜は盛夏を迎えます。間之町口の百日紅（サルスベリ）の目に染みるような花色が長く続く頃あいになって御苑の杜は一年で生命のもっとも躍動する季節となるのです。

この御苑の杜には現在までに七百種ほどの植物が確認されており、百種余りの野鳥、多種の昆虫類、キノコ類などの多くの生き物が息づく杜となっています。植物学者の前川文夫先生はかつてその著書の中で、小泉源一博士の語を引用し、日本の植物区系を九つの地域に区分、近畿地方中南部から中国瀬戸内、四国、九州南部を一つの区として日本でもっとも豊かな植物相の発達する地域として、「そはやき」（襲速紀）地域を区分しました。「襲」は九州南部を意味する襲の国、「速」は豊予海峡を指す速吸瀬戸、「紀」

は紀伊半島、和歌山県、三重県南部を意味する紀の国です。この地域はまた、日本固有の植物が多いことでもよく知られています。御苑の杜の成立するここ京都盆地は、この「そはやき」地域の北端に近く、その北部の日本海地域と接している格好になります。



鮮やかな花色の紫陽花



間之町口のサルスベリ

いるものといえますが、元はと言えば、鴨川など大小河川が南北に流れる地域の氾濫原に発達した沖積平野上にできたものであり、古くから平安の都として歴史文化が育まれ、都の人々の生活が長年営まれてきたところであるために、もともとこの植生の形は周辺の杜寺林などに断片的に残っているだけです。ケヤキやムクノキといった沖積平野によく生育する落葉広葉樹が多いこの御苑の杜もそうした断片の一つなのでしょう。

この御苑の杜は、シイ・カシ類などの常緑広葉樹林が発達する暖温帯という地域にあり、より冷涼な気候に発達するブナなどの落葉広葉樹林の発達する冷温帯と区別されます。このように見ますと御苑の杜は、シイ・カシ類などの常緑広葉樹林を主体とした豊かな植物相の発達する地域に成り立って

述べた常緑樹が繁茂するエリアがパッチ状に広がっているのが御苑の杜というわけです。昨年一月、我が青春時代の学び舎近くのこの御苑の杜に戻り、(財)国民公園協会支部長の職を拝しました。(財)国民公園協会では京都御苑保存会時代以来、綿々とこの御苑の杜の維持保存に携わっています。最近では世の移り変わりとともに、運営も大変厳しいものとなってきておりますが精一杯、来苑の皆さまに喜んで頂ける御苑であるよう頑張りますのでどうかよろしくお願い致します。



(財)国民公園協会
京都御苑支部長

この御苑の杜は、シイ・カシ類などの常緑広葉樹林が発達する暖温帯という地域にあり、より冷涼な気候に発達するブナなどの落葉広葉樹林の発達する冷温帯と区別されます。このように見ますと御苑の杜は、シイ・カシ類などの常緑広葉樹林を主体とした豊かな植物相の発達する地域に成り立って



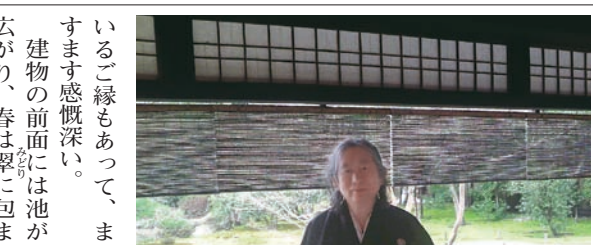
建礼門前に広がる御苑の杜

この美しい拾翠亭が、明治の動乱をくぐり抜けて、数少ない遺構・文化遺産として今なおその美を残していることは日本の誇りであると思う。そして、いつまでも変わらぬ姿を後世に伝えていくって頂きたいものと希ってやまない。

(菅家塩小路家刻道 家元)

拾翠亭を利用して 塩小路 光孚

「蝶のように舞い、蜂のように刺す」とは、往年の名ボクサー、カシアス・クレイ、後のモハメド・アリの名言である。これは、彼のボクシングの戦い方を表したものだ。私の家の家刻道の秘伝も、このような動物の振る舞いなど自然の姿になぞらえて考えられている。たとえば、蚕が無心にクワの葉を食べ進んでいくように、鳥が自由に大空にシユプーを飛ばすように、筆を揮って飛ぶように、篆刻を彫り進める人の技と心が周りの自然界の色々な事柄と重なっていることがひとつの理想となっている。



内容・趣のいくらかでも感じ取って頂きたいと思っている。その一環として拾翠亭の集まりには、東京をはじめ国内は元より、遠く外国の方が見えることもある。その誰もが、この自然と調和した美しい建築に感銘を受けられるようである。この集りに参加して頂く事によって、私の家に伝わる家刻道の奥義にも少し触れて頂くことが出来るならば、とても嬉しい事だと思っている。

催事案内

■平成24年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記のとおりです。都市の中で貴重な緑をもつ御苑で、夏の自然を観察しましょう。

夏の自然教室“夏の御苑にふれよう”

7月22日(日) 9:30~12:00頃

主催 環境省京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348
財団法人国民公園協会 京都御苑 TEL075(211)6364
指 導 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内 容 夏の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 乾御門前
(上京区京都御苑内西北門)

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 保険料100円

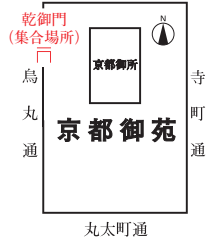
その他 筆記用具をご持参下さい。

手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があると便利です。
ハチの被害を避けるため、服装については、黒い衣類や帽子は着用しないようにお願いします。

*以降の自然教室予定

秋の自然教室“秋の御苑にふれよう”

平成24年11月18日(日) 9:30~12:00頃



①水際から離れた湿土に産卵するヤブヤンマ(♀)

トンボ池のいきものノート

生態調査が教えてくれる事

河合 嗣生

トンボ池は富小路休憩所・テニスコートの北に隣接する約二千平方メートルの生態園です。東半分はほぼ正方形の造成池、西半分はコナラやウワミズザクラなどを主とする雑木林、周囲をアラカシに囲まれています。今回は生態調査をもとにトンボ池の魅力をご紹介します。

●トンボ池の四季

春 キシヨウブの新芽、ヤマザクラやコブシの花を求めてくる野鳥、外周生垣のウグイス、年一回春だけ現れるツマキチョウ(写真②)、夏に近づくともリアオガエルの産卵が始まります。

夏 ハスの花が咲き、岸辺のハンゲショウの葉が白く色付き始めるとモリアオガエルの幼体の上陸し始め、トンボ類も多くなり、林縁のクサギの花に蜜

を求めてカラサアゲハやナガサキアゲハが訪れ、雑木林にはハイイロチョッキリ(甲虫の仲間)が産卵後に落ちた枝葉付きのドングリを口にします。

秋 ガマの穂綿が飛び、クサギやネズミモチの実が色付き始めると、北国から冬鳥が渡ってくる季節です。暖かい日はテングチョウ、ムラサキシジミなど成虫で越冬する蝶の日光浴が観察できます。

冬 野鳥たちがキツタの実を食べ、樹々の枝先や樹皮に隠れる昆虫をさがすが目につきます。

●トンボ池の興味深い生きもの
カエルと言えは水中生活の印象があります。産卵(写真③)は主に樹上で暮らしています。産卵シーズンになると水面に張り出す樹木の枝や岸辺の草葉にソフトボール程の大きさの白い泡に包まれた卵塊を産みつけます。やがて泡の中でふ化したオタマジャクシ(幼生)は下の水面へ落下し、前後の足が生えそろういカエルの姿になった幼体は上陸し、しばらくは水辺で生活しますが、やがて樹林で生活を始

めます。その他、シュレーゲルアオガエル、アマガエル、ツチガエルが生息しています。ヤブヤンマ(写真①)は日中休み朝夕に活動する美しいトンボで、水際から少し離れた場所の湿土や朽木、コケなどに産卵する習性があります。その他、クロスジギンヤンマ、オニヤンマ、モノサシトンボ、オオアオイトトンボ、リスアカネ、ハグロトンボなど十六種が観察できます。



②吸蜜するツマキチョウ(♂)



③ハスの茎で休むモリアオガエル

●トンボ池の環境変化と生きもの

これまでの生態調査で三百種以上の動植物・キノコ類を確認しました。人が造り上げた場所にも関わらず、これほど多くの生きものを見ることは興味深いことです。「水辺」草地・樹林地の連続性」と「多様な樹木の存在」が生きものにとって大切な環境であることを意味します。しかし放置されることで環境と共に、生息する生きものの種も変化する。生態調査から判ります。

京都御苑にいらっしゃる皆様の中には自転車を利用される方も多くおられます。自転車は手軽で便利な乗り物であり、多くの方々に利用され、今日では環境にもやさしく、運動不足の解消のため健康的な交通手段としても注目されています。

そのような状況の中で残念なことに御苑内での自転車の放置も多々見られるようになってきました。特に鳥丸丸太町交差点近くの間の町口には恒常的に多数の自転車が放置される。その中で四角に組んだ竹枠を池に浮かべ、ウキクサを除去し水面を見せました。すると、ウキクサが産卵に訪れ、翌年には羽化を多

く見られるようになりました。御苑の景観は来苑する皆様の高い意識により保たれているものであり、何より自転車を利用される方のマナーの向上

が大切です。京都御苑は御所を取り囲む京都の歴史を感じる場として、多くの皆様が自然とのふれあいや憩いの場として利用されているとともに、観光のため遠方より来苑される方も多くいらつしやいます。また、外国の方も多くいらつしやいます。

古都京都の中心部に位置する広大な緑の空間の景観を維持するため、自転車を利用される方はマナーを守った利用をしていただくようお願い申し上げます。

ており、通勤・通学等で地下鉄丸太町駅を利用される方が駐輪場代わり自転車置き場を置く場として、多くの皆様から自然とのふれあいや憩いの場として利用されているとともに、観光のため遠方より来苑される方も多くいらつしやいます。また、外国の方も多くいらつしやいます。

京都御苑は御所を取り囲む京都の歴史を感じる場として、多くの皆様から自然とのふれあいや憩いの場として利用されているとともに、観光のため遠方より来苑される方も多くいらつしやいます。また、外国の方も多くいらつしやいます。

自転車利用のマナー

京都御苑管理事務所

夏のトンボ池一般公開
8月3日(金)~5日(日) 9時~11時半
講師・スタッフが随時案内します

「閑院宮邸跡」見学
京都御苑南西角の創建以来の場所に建つ、「閑院宮邸跡」。収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。苑内散策の折には是非立ち寄り下さい。
収納展示室 午前9時~午後4時
休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

和名	開花期	主に見られる場所
ナツツバキ	6月~7月	中立売御門内
アベリア	5月~11月	大宮・仙洞御所 東側散策道沿い
サルスベリ	7月~9月	間ノ町口内、九条池周辺 建礼門前、寺町御門、等

会員募集
財団法人国民公園協会 京都御苑
年会費 ●普通会員 1,000円以上
●賛助会員(会社・団体) 10,000円以上
会員への特典
1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
申し込み、問い合わせ先
財団法人国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL075(211)6364



④ 2011年春の池全景: 水面を厚く覆うウキクサ(5月)



⑤ 2012年春の池全景: ウキクサが枯死し水面が見える(3月)

した。そこで四角に組んだ竹枠を池に浮かべ、ウキクサを除去し水面を見せました。すると、ウキクサが産卵に訪れ、翌年には羽化を多

数確認しました。この成果を基に昨年末よりウキクサの生育を調整するために冬の給水

を止め(写真⑤)、また植物の繁茂により陸地化した水際の泥を一部除去し水面部分を広げました。今夏のトンボ池が生きものの生育環境としてどのように変化するか楽しみです。

トンボ池の一般公開は春夏の年二回、今回は八月三日~五日です。是非、トンボ池に暮らす生きもの達の観察をお楽しみください。

*注・トンボ池は生態的な環境を保全・維持するために通常は閉鎖しています。(京都自然観察学習会)